

第3回精神保健福祉を考える映画会



ドキュメンタリー映画

だってしょうがないじゃない

映画上映&坪田義史監督によるトークショー



2026.2.21 (土) 13:00-16:00 (開場12:30~)  
三井金属あげおコミュニティセンターホール

予約不要 参加費1000円

本編にはバリアフリー字幕がついています

主催・お問合せ  
あげお福祉会後援会

上尾市緑丘2-2-11 (社会福祉法人あげお福祉会内)  
TEL 048-777-2188 /FAX 048-778-3533

# 発達の 凸凹

## 発達障害を抱えながら独居生活を送る叔父の日常を 発達障害と診断された映画監督が撮り続けた三年間



精神に不調をきたした映画監督/坪田義史が精神科で問診を受けたところ発達障害のグループの一つである「ADHD/注意欠如多動性障害」に適合すると診断を受け、親類に広汎性発達障害を持ちながら一人暮らしをする叔父さん(まことさん)の存在を知る。坪田は衝動的にカメラを持って会いに行く。

以降3年間、まことさんとの交流を深めていく中で「親亡き後の障害者の自立の困難さ」や「知的障害者の自己決定や意思決定の尊重」「8050問題に伴う住居課題」などの問題に直面していく。

まことさんと出会ってから約三年の月日があったという間に過ぎました。こだわりが強く偏った僕の視線は、まことさんのどこまでも純粋な感性に触れ、フレームに収まりきれないありのままの姿に惹かれました。当時鬱や不眠に悩み、精神科を受診して注意欠如多動性障害と診断を受け、破れかぶれの状態で撮影に及ぶ僕を、まことさんは「義史さん」と呼び、穏やかな表情で受け入れてくれました。取材を終えた別れ際の玄関先では、必ず「またね」と言って自ら手を差し出して握手をしてくれたまことさん。本作「だってしょうがないじゃない」は、被写体のまことさんの協力なしでは、成立しえなかった作品です。

発達障害を生き抜く為には、誰もが自分らしくいられる社会が必要です。本作『だってしょうがないじゃない』は、今後の上映活動を通して、見た目では分かりづらい発達障害の「社会的受容性」への契機にしていきたいと考えています。僕は、これからも、まことさんに会いに行きます。

監督 坪田義史



## あげお福祉会 後援会 会員募集中

私たちは、障害のある方とそのご家族が、自分らしく希望豊かに生きられるような社会づくりを推進し、誰もが理解し合い、尊重し合い、支え合う地域づくりを目指して活動しています。



主催：あげお福祉会後援会

共催：公益社団法人埼玉県精神保健福祉協会

後援：上尾市/上尾市教育委員会/上尾市社会福祉協議会/伊奈町/伊奈町教育委員会/桶川市  
桶川市教育委員会